



特集

はまぐち誠

Vol.1

10月20日(木)
参議院経済産業委員会で
国会初質問に立つ!

はまぐち誠、堂々の 国会質問デビュー!

皆さんの声を、 国会に届ける!

①第4次産業革命(主に自動運転)について



はまぐち誠の主張

- 自動運転も、世界的な基準・標準を日本が先頭に立って作ることが重要。
- 日本はEU等とは連携して議論しているが、米国は独自の指針を出す等、その枠から外れていないか。米国もしっかり巻き込むべきだ。
- 法制面も重要。今は人が運転することが前提。世に普及させるには法制度の見直しが不可欠。政府はどのように認識し、また対応しているか。

政府答弁 ○経産省として国連会議等も活用しながら、危機感を持って取り組みたい。



はまぐち誠の主張

→オールジャパンで、自動運転技術で世界をリードするために、政府全体としての支援を継続的にお願いしたい!

②自動車関係諸税について

はまぐち誠の主張 [資料でデータを示して]



- ①「車は贅沢品」時代に多くの税が課され、「車は生活必需品」の今も継続されている。
- ②「暫定(税率)」と言いながら、既に40年以上が経過。
- ③税金の上に税金をかけている、タックスオンタックスが常態化。
- ④日本の自動車ユーザーは、米国ユーザーの約30倍の税負担をしている。
- ⑤自動車ユーザーが負担した国税金約6,000億円が、自動車と関係ないところに使われている。

資料②
自動車関係諸税に課せられている本額以上の税負担

項目	乗用車	軽自動車	軽貨物車	バス	トラック	乗用車以上の税負担率	日本税率
取得税	24.2%	24.2%	48.4%	2.0%	4.0%	4.2倍	4.2%
保有税	4.4%	0.8%	5.2%	1.2%	1.2%	4.2倍	4.2%
消費税	15.0%	11.7%	32.1%	2.1%	2.1%	4.2倍	4.2%

※取得税は2020年10月1日施行の軽減税率適用後の税率。保有税は2020年10月1日施行の軽減税率適用後の税率。消費税は2020年10月1日施行の軽減税率適用後の税率。

配布した資料(一部)

政府答弁

- 取得・保有・走行、夫々の段階で重複した課税がなされている。また複雑で負担水準が高い。ずっと暫定が続いているとの指摘があることは、ユーザーの一人としても痛感。
- 経産省として、自動車ユーザー負担の軽減、国内需要の喚起に努めたい。



はまぐち誠の主張

→自動車は国内産業を支える屋台骨であり、地方への波及効果も大きい。平成29年度の税制改正では、経産省と同じ思いを取り組んでいきたい。自動車関係諸税の負担軽減に向けて、しっかり取り組んでほしい!

③自動車整備士不足について

はまぐち誠の主張

- 車社会の安全を守る非常に重要な仕事と認識。
- 他方、近年希望者は半減、また整備士の高齢化も進行し、事業に影響が出ていると聞いている。
- 若者の希望者を増やすにはイメージ対策も重要。
- 政府として現状をどう認識し、対策を講じているか。

政府答弁 ○人材確保に向け、学校説明会や職場体験の推進やポスター作成、また先進的な事例の共有等を実施している。



はまぐち誠の主張

→「やりました。」と言ったって、誰も知らなかったらやっていることにならない!若い人が自動車整備士を目指してもらえる仕組みづくりを政府一丸で取り組んでほしい!

※委員会質問の様子は参議院インターネット中継(生・録画)でご覧いただけます。 <http://www.webtv.sangiin.go.jp/webtv/index.php>

はまぐち誠 HP

是非、気軽に見てください。 →

